

ガンコ親父の

「鏡よ鏡よ、鏡さん。世界中で一番美しいのはだあれ？」と、自分が一番でない気が済まないお妃は、絶対に嘘をつかないという魔法の鏡に向かって質問した。「国内はもちろん、世界中でも美しいのはもちろんお妃様です」と魔法の鏡は答えたあと、少し言いにくそうに「……白雪姫を除いてですが」と言った。

白雪姫の継母にあたるお妃はそれを聞いて逆上した。確か、森の中で部下に殺させたはずだが、もし、生きていたら自分で！と意気込んだ。姫は森の中の小人（こびと）の家に行った、という情報を手に入れたお妃は変装して出かけた。悪知恵を働かせ、何度か殺そうとしたが、その都度、森の小人たちによりその企みを邪魔されたのだった。

今度こそと、誰にも見分けがつかない毒リンゴを作り、白雪姫の元に出かけた。小人たちが地酒作りに出掛けている昼間、何食わぬ顔をして白雪姫にその毒林檎を食べさせることに成功したのだった。仕事から戻った小人の一人が床に横たわっている白雪姫を見て、「アッ、白雪姫が死んでしまった」と以前にも聞いたことがある古臭いギャグを放った。隣の小人が、そんな馬鹿なことをいう場合かと、たしなめた。

森の小人たちが死んだ白雪姫をガラスの棺に入れて、山の上に移し、毎日それを眺めては悲しんだ。その後、通りかかった王子がいて、小人たちの案内で山の上の白雪姫を見ることになった。死んでもまだ雪のような肌の白さや血が通っているような唇の寝姿を見た王子は、真剣に小人たちに頼み込んで棺を譲ってもらうことにした。家来に命じてお城まで棺を運ばせようとしたが、途中で木の根っこにつまづき棺がぐんと地面に落ちた。と、その時、白雪姫の喉に詰まっていた毒リンゴの塊が飛び出し息を吹き返したのだった。さすがは心優しい白雪姫。目を覚ますと、まず転けた家来を気遣った。「怪我はなかったですか？そう、それは良かったわ」と言った後、「毛がない」松次郎という家来の頭を見ながら、ふふっ、そうでしょうねと笑った。

隣の領地の王様より「結婚披露宴」の招待状が届いていたお妃は、ドレス姿を魔法の鏡でチェックした後、久しぶりに質問をした。鏡は「お妃が一番だと思ったのですが、今度結婚される若い姫がずっと美しいです」と素直に言った。グエツと取り乱したお妃は香水の瓶を投げつけ、鏡を割ってしまった。気が気でないお妃は、若い姫を一目見ようと披露宴に出かけた。

クリスマスシーズンと重なった城内の披露宴はキラキラと華やかだった。豪華なオードブルの卓上には、小人たちが今年作った『しまっちゅ伝蔵』も並んでいた。結果として白雪姫の命を救ったこととなる松次郎も、特別に披露宴に招かれていて、炭酸割りを楽しんでいた。

一方のお妃は新しい姫を見た途端、顔からさっと血の気が失せた。「あっ、あれは死んだはずの白雪姫、まさか？」とショックを受け、大理石の床に崩れ落ち、絶命した。神様はいつでも正しい者の味方だったし、今回も良い行いをしたものがうまい酒を飲む権利を持つと、教えてくれているのだった。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ
伝蔵

でん
ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
0997(65)0251



喜界町
鹿児島県

25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。

新・白雪姫」に乾杯!!



<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。